

# 新任保育者の早期離職の要因

—卒業生を対象とした意識調査から—

小川 千晴

聖隷クリストファー大学

## Factors of early turnover of new caregivers

—From consciousness survey of graduates—

Chiharu OGAWA

Seirei Christopher University

キーワード：早期離職，保育者，卒業生

Key words：Early turnover, Nurture person, Graduate

## 1. はじめに

子どもの保育や養護に関わる職場では、卒業して3年以内で退職する早期離職者が後を絶たない。厚生労働省(2013)「保育を支える保育士の確保に向けた総合的取組」において、人材確保に関する総合的な取り組みが示され、保育士不足により、保育の質を確保しづらい状況となっている。また、2015(平成27)年4月には「子ども・子育て支援3法」が施行予定であり、保育の質を上げるための対策のひとつとして、保育者の給与の改善が示されている。

本学部こども教育福祉学科(以下、本学科と称する)では、3期生までが卒業し、資格を有した職員として働いている。筆者が来学した卒業生との会話から整理した内容(2013)では、「保育者としての知識や技術不足」、「自分自身の気持ちに余裕を持ってない」、「勤務時間外での仕事の多さ」、「職場での人間関係」が挙げられ、離職の要因の上位となっている項目と一致しており、現状把握に努めることを課題としていた。

## 2. 研究目的

本研究では、卒業生を対象として、現在の職業に関する意識調査をし、離職へとつながる要因を明らかにすることを目的とする。

## 3. 先行文献の検討

### 1) 保育者の早期離職

保育者の早期離職時期について、加藤ら(2011)が、幼稚園、保育所ならびに児童福祉施設を対象とした調査において、「在職期間3年未満の退職者」が、「幼稚園では63%に、保

育所では実に81%存在していた」と示している。加えて、森本ら(2013)が幼稚園、保育所を対象とした調査においては、「在職期間3年未満の退職者」が、回答のあった14施設のうち「63施設と半数近くを占め、165人にのぼった」と報告している。

退職理由として、加藤ら(2011)の調査によると、『『現場』の立場として、早期離職に至ったその理由の多くを『仕事への適性がない』『健康上の理由』としてとらえていることが明らかとなった』としている。また、森本ら(2013)が『『進路変更』や『身体的・精神的な体調不良』に至った原因について質問』した調査結果によると、『『責任の重さ』『知識能力不足』『職場の人間関係』』が上位に挙げられていた。

### 2) 保育者の人材確保への対策

厚生労働省(2013)では、「就業継続」への取り組みとして、「就職前の期待と現実とのギャップ(リアリティショック)への対応方法、保護者対応等の業務についての研修を実施」することを目的として、次の研修を行っている。「①新人保育者を対象とした離職防止のための研修」、「②保育士等を対象とした保育の質の向上のための研修」。

また、「働く職場の環境改善」への取り組みとして、私立保育所の保育士を対象とした「①保育士の処遇改善の実施」を挙げている。本学科の卒業生(1、2期生55名対象)においては、私立保育所に勤務する割合が、全体の33%を占めている。来学した卒業生から「少しだけではあるが、給料が上がった」との話があったため、処遇を改善することは、効果が期待できると考えられる。

さらに、内閣府(2014)「子ども・子育て支援新制度における『量的拡充』と『質の改善』

について」で示されている「2. 質の改善（給付等関係）」の「職員の定着・確保の仕組み（職員給与の改善、キャリアアップの推進）にて、「私立幼稚園・保育所等・認定こども園の職員給与の改善」をしようとしている。

## 4. 研究方法

卒業生の意識調査を通して、早期離職の要因を分析するための研究方法として、無記名による質問紙調査を実施する。なお、質問項目については、社団法人全国保育士養成協議会（2010）『「指定保育士養成施設卒業生の卒後の動向及び業務の実態に関する調査」報告書Ⅱ』で報告された設問を参考に作成した（資料1参照）。

### 1) 調査対象

本学科を2013年4月までに卒業した学生58名のうち、2014年3月までに来学した卒業生を対象とする。

### 2) 選定方法

来学した卒業生に対し、研究目的、研究方法及び内容、研究参加者の権利（参加の自由意思、同意の撤回）、プライバシーの保護、研究参加による利益と不利益、研究者の責任範囲、研究の公表の説明を口頭ならびに書面で行い、研究協力が得られるかを確認した。

### 3) データ収集方法

同意が得られた協力者には、質問用紙に回答を記入していただき、研究者が回収をした。

### 4) 調査内容

質問紙は、「回答者の属性」、「勤務形態について」、「職業に関する意識について」、の3つ

で構成し、5段階の評定尺度、単数回答と複数回答のある回答選択形式、自由記述とした。

## 5) データ分析方法

Excelによる単純集計にて分析を行う。

## 6) 倫理的配慮

質問紙調査は無記名で行われるため、個人は特定されない。また、研究で収集したデータは、鍵のかかる場所に保管され、分析後速やかに廃棄した。なお、本学倫理委員会にて2013年9月に調査の承認（認証番号13043）を得て実施している。

## 5. 結果

### 1) 調査の概要

調査期間は2013年11月から2014年3月までに来学した6名（男性1名、女性5名）の卒業生とし、全員から回答を得ることができた。

### 2) 調査の結果

#### (1) 属性

勤務先の種別は、「保育所」が5名、「認定こども園」が1名であり、雇用形態は、「正規職員」が5名、「パートタイム」が1名であった。

現在の仕事の立場では、「クラス担任（主）」が2名、「クラス担任（副）」が2名、「クラス担任（その他）」が2名であった。

#### (2) 勤務形態について

勤務形態については、「常勤（8時間勤務）」が3名、「早出・遅出のある勤務」が3名であった。

回答日の1週間以内での1日の職場での労働時間では、「8時間以上9時間未満」が2名、

「9時間以上10時間未満」が2名、「10時間以上11時間未満」が1名、「7時間以上8時間未満」が1名であった。

回答日の1週間以内での勤務時間以外での労働時間について8つの項目のうち、「記録を作成するためにかけた時間」が4名で平均3時間、「指導計画の作成、教材研究のための時間」が3名で平均1.5時間、「会議・打ち合わせ・報告などにかけた時間」が3名で平均2時間であった。

休暇の形態について、「週休2日制（完全、または月4回）が3名、「週休1日」が1名、「週休2日制が月3回」が1名、「特定の休暇は定められていない（不規則）」が1名であった。

### (3) 職業に関する意識について

職業として選んだ理由として、10の質問項目から複数回答の結果、「子どものときからの夢であった」に全員が回答し、「やりがいのある仕事だと思った」が5名、「資格を生かしたかった」が2名となった。

職場を選んだ時に重視したことについて、17の質問項目から複数回答の結果、「給与」、「人間関係」、「特になかった」が2名となり、回答にはばらつきがみられた。

職場に対する満足度について、10の質問項目に対し、「満足」から「不満」までの5段階の評定尺度を用いた結果、「満足」、「やや満足」に回答が最も多かったのは「職場の人間関係」の5名、その他として「人材育成の雰囲気」、「通勤の便利さ」、「仕事の内容」、「福利厚生」を挙げている。一方で、「やや不満」、「不満」への回答にはばらつきがあり、「労働時間」、「福利厚生」、「職場の将来性」が挙げられていた。

仕事へのやりがいについて、「よく感じる」から「まったく感じない」の5段階の評定尺度

を用いた結果、「よく感じる」が2名、「時々感じる」が4名となった。

また、どのような時にやりがいを感じるのか、16の質問項目から複数回答の結果、「子ども（利用者）との信頼関係が深まったとき」に6名全員、「子ども（利用者）への理解が深まったとき」が5名と回答が多かった。その他、「子ども（利用者）に対する適切な援助や指導（保育）ができたとき」、「自分がやりたいと思う保育ができたとき」、「保護者（利用者の家族）から感謝されたとき」を挙げている。

仕事をやめたいと思ったことがあるかは、「ある」が2名、「ない」が4名であった。

「ある」の回答で、どのような時であったか、18の質問項目から複数回答の結果、「職場内の人間関係がいやだと思ったとき」、「自分の思ったような保育（業務）ができなかったとき」、「仕事に見合う報酬が保証されていないと思ったとき」、「勤務時間が長く、休みが取りにくいとき」を挙げている。

職務上の難しさや大変さを感じることにについての自由記述では、「子どもの体調管理の把握をすること」、「日々の保育を組み立て、保育を進めるにあたり、他の職員に指示をすること」、「保護者対応」、「子どもに注意をした際に、泣いてしまったり、他の先生に助けを求めること」といった回答であった。

## 6. 考察

勤務形態に関して、勤務時間以外での仕事を1週間の間で平均して2～3時間行っている。これは、勤務内で保育の記録や教材研究といった仕事を行うことが難しい状況であることが理解できる。

職業に関する意識については、「子どものと

きからの夢であった」、「やりがいのある仕事だと思った」という理由で就職先を選んでいる。労働条件を中心とした項目において、回答にはばらつきが見られたことや、「特になかった」を挙げていることから、職場の労働環境よりも、自らの目標でもある保育者として働くことを重視している。

職業に対する満足度については、「職場の人間関係」には、ほぼ満足している。不満に感じている項目には、1～2名とばらつきがみられたことから、特に不満を感じていないことが伺えた。

仕事へのやりがいについては、全員がやりがいを感じており、特に「子ども（利用者）との信頼関係が深まったとき」、「子ども（利用者）への理解が深まったとき」といった子どもとの関わりの中で、保育者としてのやりがいを見出し出していることが理解できる。

一方で、今の仕事をやめたいと思ったことがあると2名が回答している。質問項目の回答は複数選択されていたが、特に「職場内での人間関係がいやだと思ったとき」、「自分の思ったような保育（業務）ができなかったとき」を挙げていた。やりがいを感じながらも、勤務して1～2年で辞めたいという思いで葛藤しながら働いている回答者が存在する。これは、社団法人全国保育士養成協議会専門委員（2010）による卒後の動向調査においても回答が多かった項目である。また、森本（2013）らが離職者を対象としたインタビュー調査の結果においても、「職場での人間関係」が退職理由として挙げられている。保育所では、複数の保育士でクラスを運営する場合がほとんどである。自由記述の中には、「中心となって保育を進める際に、先輩である同僚の職員へ指示をすることに遠慮や難しさを感じている」としていた。これも職場にお

ける人間関係に影響する要因であると考ええる。

職務上の難しさや大変さを感じることにについては、保育者や保護者との人間関係、子どもへの関わりの2点に整理される。経験が浅い分、実践を重ねることで、解決することを望む。

本調査において、職場での人間関係が仕事に対する意識に左右されていることが理解できた。

調査の時点では、満足と感じている回答者がほとんどであり、良好な人間関係が築かれているようである。一方で、筆者が本学科1期生を対象とした聴き取り（2013）では、『自分の実践していることについて、アドバイスをしてもらえず不安』、『保育を否定されてしまい、自信をなくす』、『1年目の職員は自分だけなので、話しづらい雰囲気にある』といった内容が話されている。保育の経験年数が少ない卒業生にとって、先輩保育者への遠慮があるのかもしれない。しかし、自らの保育観や姿勢を話すことができること、保育者として経験が浅い卒業生を育てようという職場の姿勢も必要ではないか、と考える。

## 7. おわりに

本調査は、離職へとつながる要因を明らかにすることを目的としていたが、来学した卒業生を対象者としたため、母数が少ないことから明らかになったとは言えない。しかし、少ななかでも職場での人間関係において、仕事をやめたいと思ったことがあると回答したことから、要因を明確にする必要がある。調査方法を郵送法にて卒業生全員を対象とすること、また質問の項目についても、回答しづらい内容もあったため検討を行い、実施していきたい。

## 引用・参考文献

加藤光良・鈴木久美子 (2011)「新卒保育者の早期離職問題に関する研究Ⅰ～幼稚園・保育所・施設を対象とした調査から～」常葉学園短期大学紀要 (42) 79-94.

厚生労働省 (2013)「保育を支える保育士確保に向けた総合的取組」(<http://www.Mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11907000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Hoikuka/0000026218.pdf>, 2014. 10. 27).

宮下敏恵 (2010)「保育士におけるバーンアウト傾向に及ぼす要因の検討」上越教育大学紀要 (29), 177-186.

森本美佐・林悠子・東村知子 (2013)「新人保育者の早期離職に関する実態調査」奈良文化女子短期大学紀要 (44), 101-109.

内閣府 (2014)「子ども・子育て支援新制度に

ついて」(<http://www.8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/outline/pdf/setsume.pdf>, 2014. 12. 4).

小川千晴 (2013)「幼稚園・児童福祉施設における早期離職－動向調査と卒業生の現状を通して－」聖隷クリストファー大学社会福祉学部紀要 (11), 56-63.

社団法人全国保育士養成協議会専門委員会編 (2010)「『指定保育士養成施設卒業生の卒後の動向及び業務の実態に関する調査』報告書Ⅱ－調査結果からの展開－」保育士養成資料集 (52), 299-311.

## 謝辞

本研究を実施するにあたり、調査にご協力いただきました、卒業生の皆さまに深く感謝いたします。

資料：調査用紙

## 職業に関する意識調査

この調査は、保育所、幼稚園、福祉施設で働く卒業生の皆さんから、職場での現状や専門性、職業に関する意識についての考え方をおききするために行うものです。お忙しい中を誠に申し訳ありませんが、アンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます。

ご記入は全て無記名です。またご記入いただいた内容は、統計的に分析されます。調査結果は、研究以外の目的には使用いたしませんので、みなさまにご迷惑をおかけすることは決してございません。また、この調査用紙は、データを入力後、シュレッダーにて速やかに廃棄し、個人情報の保護に配慮いたします。

この調査は、3つのパートで構成されています。あてはまる番号に○をつけるか、回答欄に回答を記入してください。アンケートの項目には答えにくいものがあるかもしれませんが、あまり深く考えずお答えいただける範囲で進んでください。

アンケート用紙の記入所要時間は10分程度です。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、次ページから始まる質問について、あてはまる番号に○、また必要な箇所にはご記入をお願いいたします。

聖隷クリストファー大学  
社会福祉学部こども教育福祉学科  
小川 千晴

1. 最初にあなた自身と勤務先についてお伺います。それぞれの項目についてあてはまる番号に○をつけてください。また必要なところは、記入をお願いします。

(1) 性別

1. 男性      2. 女性

(2) 勤務先の種別

- [illegible]

### (3) 雇用形態

1. 正規職員      2. 非正規職員（フルタイム）      3. パートタイム  
4. その他（ ）

(4) 現在の職種の基礎資格になる資格

1. 保育士      2. 幼稚園教諭      3. 社会福祉士      4. 児童指導員  
5. なし      6. その他 (                      )

(5) 現在の仕事での立場

1. クラス担任（主）                      2. クラス担任（副）                      3. クラス担任(その他)
4. フリー(クラス担任ではない)                      5. 担当制である
6. 担当制ではない                      7. 特に決まっていない
8. その他（                      ）

2. 勤務形態についてお伺いします。それぞれの項目についてあてはまる番号に○をつけてください。また必要なところは、記入をお願いします。

(1) 勤務形態について

1. 常勤（8時間）勤務      2. 早出・遅出のある勤務      3. 夜勤のある勤務  
4. 時間制（パートタイム）      5. その他（ ）

(2) 最近 1 週間のあなたの 1 日あたりの職場での労働時間（休憩時間を除く）は、およそ何時間ですか。

- |                    |                                 |
|--------------------|---------------------------------|
| 1. 4 時間未満          | 2. 4 時間以上 5 時間未満                |
| 3. 5 時間以上 6 時間未満   | 4. 6 時間以上 7 時間未満                |
| 5. 7 時間以上 8 時間未満   | 6. 8 時間以上 9 時間未満                |
| 7. 9 時間以上 10 時間未満  | 8. 10 時間以上 11 時間未満              |
| 9. 11 時間以上 12 時間未満 | 10. 12 時間以上 13 時間未満             |
| 11. 13 時間以上        | 12. その他（                      ） |

(3) 最近 1 週間のあなたの勤務時間以外での労働時間（持ち帰り）は、ありましたか。  
仕事をされた場合の内容と所要時間を記入してください。

内 容	時 間	分
① 保育の時間（子どもや保護者、利用者とかかわっていた時間）		
② 記録を作成するためにかけた時間		
③ 教材などを作成するためにかけた時間 （指導計画の作成、教材研究、個別支援計画などを含む）		
④ 事務的な仕事にかけた時間		
⑤ 掃除や室内の整理などにかけた時間		
⑥ 会議・打ち合わせ・報告（引き継ぎ）などにかけた時間		
⑦ 休憩時間		
⑧ ①～⑦以外の内容にかけた時間		

(4) 休暇の形態について

- |                                |                         |
|--------------------------------|-------------------------|
| 1. 週休 1 日                      | 2. 週休 2 日制（完全、または月 4 回） |
| 3. 週休 2 日制が月 3 回               | 4. 週休 2 日制が月 2 回（または隔週） |
| 5. 週休 2 日制が月 1 回               | 6. 特定の休暇は定められていない（不規則）  |
| 7. その他（                      ） |                         |

(5) 休暇の曜日について

- |                                |                      |
|--------------------------------|----------------------|
| 1. 土曜、日曜、祝日が主である               | 2. 平日が主である           |
| 3. 希望で取得することが可能である             | 4. 職場で指定された日が設定されている |
| 5. 特に決まっていない                   |                      |
| 6. その他（                      ） |                      |

3. 職業に関する意識についてお伺いします。それぞれの項目についてあてはまる番号に○をつけてください。また必要なところは、記入をお願いします。

(1) あなたが職業として選んだ理由は何ですか。次の選択肢から、あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 人と関わるのが好きだった	6. 子どものときからの夢であった
2. 資格を生かしたかった	7. 職業として社会的評価が高かった
3. 自分に向いている仕事だと思った	8. 人にすすめられた
4. やりがいのある仕事だと思った	9. 職業としてなんとなくいいと思った
5. 給料が比較的よかった	10. その他 ( )

(2) あなたが職場を選んだとき、何を重視しましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 給与	7. 職場の人間関係	13. 職場の理念・方針
2. 休暇	8. 福利厚生	14. 人材育成の雰囲気
3. 労働時間	9. 職場の将来性	15. この職場しかなかった
4. 仕事の内容	10. 職場の社会的評価	16. その他
5. 雇用形態（正規雇用）	11. 通勤の便利さ	( )
6. 雇用形態（非正規雇用）	12. 研修の充実	17. 特になかった

(3) 職場に対する満足度をお伺いします。次の項目について、満足度を5段階でお答えください。

	満足	やや満足	どちらとも いえない	やや不満	不満
1. 給与					
2. 休暇					
3. 労働時間					
4. 仕事の内容					
5. 職場の人間関係					
6. 福利厚生					
7. 職場の将来性					
8. 通勤の便利さ					
9. 研修の充実					
10. 人材育成の雰囲気					

(4) あなたは仕事をしているとき、やりがいを感じますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. よく感じる                      2. 時々感じる                      3. どちらともいえない  
4. あまり感じない                      5. まったく感じない

※ (4) で1または2に○のついた方

(4) - 1 それは、どのような時ですが。次の選択肢の中から、あてはまると思うもの全てに○をつけてください。

1. 子どもの成長が感じられたとき	10. 職員（同僚）に対して効果的な指導や援助ができたとき
2. 子ども（利用者）への理解が深まったとき	11. 職場内で自分に対する期待が感じられるとき
3. 子ども（利用者）に対する適切な援助や指導（保育）ができたとき	12. 保護者（利用者の家族）から感謝されたとき
4. 計画した保育（援助）を子ども（利用者）が喜んだり満足を感じた様子を見せたとき	13. 保護者と一緒に子どもの成長を喜び合えたとき
5. 子ども（利用者）との信頼関係が深まったとき	14. 職場でチームワークが発揮できたとき
6. 職員（施設長などを含む）から自分の仕事が認められたとき	15. 研修や研究大会などで、発表が評価されたとき
7. 自分のやりたいと思う保育ができたとき	16. その他 ( )
8. 卒園（退所）後も子どもと交流があるとき（手紙をもらったり、会いに来るなど）	
9. 外部の専門機関との連携を図り仕事を進めているとき	

(5) あなたはこれまでに、今の仕事をやめたいと思ったことがありますか。

1. ある                      2. ない

